

国産稲わらをめぐる状況

- 稲わらは、国内生産量の1割弱に相当する約70万トンが飼料利用されているものの、約20万トンを中国から輸入。
- 稲わらの収集に必要な機械の導入や調製・保管施設の整備に対する支援等により、国産稲わらの利用の拡大を推進。
- 令和元年8月の前線に伴う大雨、令和元年東日本台風等により国産稲わら収集が困難となり、供給量が不足していることから、追加的にウェブサイトを活用したマッチングの取組を実施中。

【R元年度補正】畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業

畜産クラスター計画に位置付けられた地域の中心的な経営体(畜産農家、飼料生産組織等)に対し、国産稲わらの収集に必要な機械の導入等を支援。
(補助率:1/2以内)

【R2年度】強い農業・担い手づくり総合支援交付金

国産稲わら等国産粗飼料の調製・保管施設の整備等を支援。
(補助率:1/2以内)

【R2年度】畜産生産力・生産体制強化対策事業 (国産飼料資源生産利用拡大対策のうち未利用資源活用対策)

稲わらを含む地域の未利用資源の活用促進を支援。
(補助率:定額)

○ 国産稲わらのマッチングの取組

ウェブサイトのアドレス
https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryoinawara.html

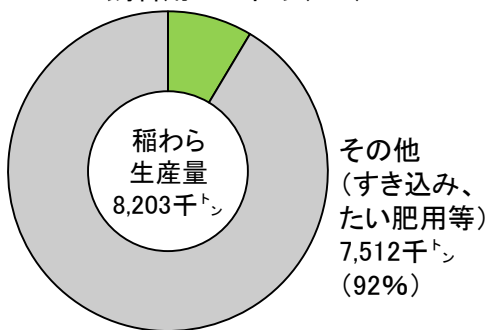
○ 中国からの稲わらの輸入量と通関価格

	輸入量(千トン)	通関価格(円/kg)
H28年度	168	31.4
29年度	209	32.3
30年度	237	29.7
R元年度 (速報値)	219	28.6

資料:財務省「貿易統計」

○ 国産稲わらの利用状況 (平成30年産)

飼料用 691千トン(8%)



その他
(すき込み、
たい肥用等)
7,512千トン
(92%)

資料:飼料課調べ
(水稻の作付面積等から推計)

○ 国産稲わらの需給状況 (単位:千トン)

区分	飼料仕向量①	輸入量②	飼料需要量③=①+②	自給率①/③
H26年産	783	143	926	85%
27年産	784	157	941	83%
28年産	751	186	937	80%
29年産	729	223	952	77%
30年産	691	232	923	75%

資料:飼料仕向量は飼料課調べ(29年産から調査方法を変更)、
輸入量は財務省「貿易統計」(10月～翌年9月までの合計)

○ 稲わらの乾燥利用以外の活用 (生稲わらサイレージの例)

< 特徴 >

- ・天候の影響を受けずに調製が可能
- ・β-カロテン(ビタミンA)、ビタミンEの含有量が乾燥稲わらよりも多い
(肥育中期の給与に注意)
- ・乾燥稲わらに比べ嗜好性も良い

< 留意点 >

- ・ロール成形時に乳酸菌を添加し、ラッピングすること
- ・開封後は、2日以内で使い切ること